

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0871000196		
法人名	有限会社ヘルスケア一下妻		
事業所名	ケアプラザうららグループホーム①		
所在地	下妻市下妻戊34-1		
自己評価作成日	平成26年11月10日	評価結果市町村受理日	平成27年8月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2014_023_kani=true&amp;JigyosyoCd=0871000196-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=023">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2014_023_kani=true&amp;JigyosyoCd=0871000196-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=023</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	平成27年8月3日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族のように家庭的な環境の中でおもしろ、おかしく、いつもどこかで笑い声が聞こえてくるように努力している。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の思いや希望に添ったケアの提供に努め、利用者に日々の生活にやりがいと喜びを感じてもらえるよう、管理者と職員が一丸となり取り組んでいる事業所である。利用者夫婦の結婚記念日にご主人から奥さんと二人で寿司屋でお祝いをしたいとの話があり、管理者は休みを返上して場を設定し寿司屋からもお祝いをもらい、来年もまた二人でお祝いをしたいという希望につなげ、家族からも感謝の言葉をもらった。地域交流は自治会に加入し、井戸水管理・環境美化活動・イベントに参加している。地域夏祭りには休憩場所として駐車場を開放し、子供神輿が立ち寄り、アイス等を利用者と一緒に食べている。利用者の認知・身体機能低下により全員参加の外出は少なくなってきたが、利用者・家族に満足してもらえるようコミュニケーションをはかり、要望に添う支援に努めている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念をつくりあげている。朝礼で唱和して確認している。	法人の理念・基本方針と事業所独自の理念を作り上げ、事務所内やリビング等に掲示したり、申し送り時に唱和して共有し実践につなげている。年度毎の目標(利用者とのコミュニケーションを大事に行こう)も掲げて、利用者本位のケアの提供に努めている。職員からはコミュニケーションを大切にしていると利用者の状態が把握できると言う話があった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の環境整備やお祭等に参加させていただいたりして、交流に努めている。	自治会に加入し、井戸水管理・環境美化活動・イベント等に参加している。子供みこしに場所とアイスを提供したり、事業所主催の納涼祭には地域住民・家族と一緒にお囃子・ダンス・生バンド等を楽しんでいる。デイの利用者と一緒に子供リトミックを楽しみ、収穫した野菜・果物の提供を受けたり、挨拶を交わし地域の一員として交流している。介護・福祉・装備品に関する相談に応じている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	玄関、ホーム内に理念を掲示しており、面会や来所時に目を通して頂いたり、運営推進会議で説明をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に一回の会議の中で、ホーム行事の実績や利用者様へのサービス内容について報告している。又、議事録を回覧し、スタッフに伝えている。	2ヶ月毎に行政(介護福祉課2名・地域包括センター)・家族・事業所担当で開催し、主な議題は事業予定・報告で、席上出た意見をサービス向上に活かしている。家族には面会時等に報告。職員には議事録を回覧し共有している。年2回の挨拶周りの時に区長・民生委員に声掛けを行っていきたいとの事。	運営推進委員会の意義を考え、第三者的な方から意見を聞き、行政から民生委員に働きかけてもらい、参加してもらうなどし、更に実りある会議となることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居状況を月1回報告しており、相談、意見交換などを行っている。	毎月介護福祉課に利用状況を報告。地域包括支援センターと連携を深め協力関係を築いている。ケアマネ会に参加し情報交換を行なっている。中学生の体験学習の場として提供し、福祉に関する理解を得るよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践  代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことを前提にしており、スタッフ全員でいろいろと考え工夫している。	職員は拘束となる行為・弊害を周知し、利用者が安全に暮らせるケアの提供に努めている。利用者の状況・性格を理解することが第一であり、そのときにあった言葉掛けを行い、利用者の反応を見ている。車椅子の点検は管理者が実施している。家族同意の上、転倒による事故防止のため、ベッド脇にマットを敷いているが、デメリットもあり、話し合いを重ねている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングの中で話し合い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 あ	運営推進会議に地域包括センターの方も出席されているので、相談をして学ぶ機会を持ちたいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、退所時に不安や疑問点を尋ね、それに対し説明をし理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からのコミュニケーションの中で、さりげなく聞くようにしている。又、玄関にご意見箱を設置している。	家族・利用者・職員との関係は良好で意見や要望は面会時や日々の会話の中から出ることが多い。意見箱の設置・第3者機関を明示して意見の吸い上げに努めているが、そちらからの意見は無い。月報告の時に利用者の状況を電話で伝え、記録に残している。職員と良好な関係を築くため、利用者の性格を理解すると同時に、利用者きちんと説明することで問題解決に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングで意見を聞き、事業者会議にて提案している。	現場での気付きはその場で検討し、反映させている（食事提供・夜間オムツ対応等）。月1回のミーティングで意見を聞く時間を設けている。職員の様子・表情からストレスや不満が無いのか他の職員や管理者が声掛けを行い解消に努めている。管理者には何でも話せる良好な関係であるが、職員と面談の機会を設け始めた。ミーティングには専務も同席し職員の思いを周知している。食事会で親睦を深めたり、環境整備に努め、働きやすい環境であると職員から聞いた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働き易い環境を整備し、やりがいのある職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部での研修参加に努めているが、研修等の機会確保がなかなか取れないのが現状である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の協議会などに参加し、他事業所との交流をしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず事前調査をし、時間をかけて本人とお話をしながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	じっくりとお話をする機会をつくり、不安・要望を聞きながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 り	ケアマネージャーやスタッフと相談しながらケアカンファレンスをし、対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の様子を話して頂いたり、料理方法を教えて頂いたりと和気藹々の関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に対話に加わり、一緒に話をしたりしているいろいろな情報を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と相談・協力のもと、馴染みの方の面会や馴染みの床屋や美容室の利用に努めている	家族と相談し遠方の親戚・家族・友人・知人との関係が途切れないよう手紙・電話の支援を行なっている。馴染みのお店(理髪店・スーパー等)に出かけたり、家族と外食・お墓参り・自宅で一泊等馴染みの場所に出かけている。お饅頭が食べたいと言う利用者と一緒に全員分のお饅頭を買いに行ったり、自宅の様子が心配だと言う利用者や自宅に行っている。家族以外に知人の面会も多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性や日頃の関係を把握し、利用者同士の関わりや支え合いを大切にしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の際、退所後も気軽に相談をして頂けるように説明している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりとのコミュニケーションの中から希望・意向を聞いたり、ご家族に相談しながら把握に努めている。	アセスメント・生活歴・職歴・日々の会話の中から利用者の思いや意向の把握に努め、利用者の思いに添ったケアの提供に努めている。生活パターン・ペースは利用者に合わせている。困難な場合は利用者の立場になって検討し、表情・様子を見ながら取り組んでいる。カラオケ・塗り絵・家事・ビデオ鑑賞・磁石の遊び他、職員が考えた様々な取り組みを行っている、	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書やご家族から聴いたり、本人から聴いたりして把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の訴えや毎日の経過観察・スタッフ同士の意見交換などを通して把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人とご家族の話を聴きながらケアカンファレンスを行い計画を作成している。	フェイスシートやアセスメントシート活用し、利用者・家族から要望を聞き、カンファレンス会議で利用者の課題とケアのあり方について検討しプランを作成している。作成後は家族に説明し了承を得ている。ニーズに向けたケアの提供がケース記録に記入されている。モニタリング・評価を行い現況に即した再プランを作成している。気づきや変化は職員申し送りノートに記入し共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の一人ひとりの生活状況を記入し、それを確認することにより情報の共有をし、計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多様なニーズに対し我々が出来る限りのサービス支援をしていける様に努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察・消防に施設の存在を報告したり、救急救命講習でも消防の方々とお話をしている。又、地域ボランティアの方々に来ていただき、利用者の方も一緒に楽しんでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の希望を優先し、その人に合った医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医に職員が付き添い受診している。受診後は家族に電話連絡し記録に残している。家族付き添いの場合は状況経過報告を記入し、医師からコメントをもらい、記録に残している。歯科・専門医の受診対応も行っている。変化が見られた場合は系列事業所内の看護師にアドバイスを求める時もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師がいるので日常の健康管理について相談をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に介護サマリーを作成し病院側に渡しています。又、入院中に相談員、看護師等と状況確認をして早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向を確認すると共に、医療機関と相談をしてケアカンファレンスにて今後の支援策を検討している。	現時点では24時間の医療連携が難しいことから看取りは行なっていないことを家族に説明し了承を得ている。重篤時の判断は医師が家族に伝え、今後のケアと医療機関搬送等について話し合い、次につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は定期的に救急救命講習を受けており、対応出来るように努めている。		
35	(13)	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立会いの避難訓練(昼間)・夜間想定避難訓練(夕方)を一年に各一回ずつ実施し対応出来るように努めている。	年2回自主訓練と消防署指導もとで実施し(夜間想定・消火器使用方法・避難経路確認・緊急通報システム・利用者行動把握・緊急連絡網等)、利用者が安全に避難できる方法を職員は身につけている。近隣の協力依頼は行なっているが、合同訓練は実施されていない。備蓄品・緊急持ち出し用品は整備している。前回の評価をうけて、広域避難場所は家族・職員共に周知した。	地域住民に対し協力依頼内容の構築と合同訓練を実施し、スムーズに避難が出来る体制づくりを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格やその時の状況を見ながら声かけに努めている	個人情報保護に努め関係書類は事務所に保管している。情報開示に関する同意書を取り交わしている。人生の先輩として敬い、プライバシーを損ねない言葉掛けや対応を行っている。職員は馴れ合いにならないよう気をつけているとの事。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が希望や思いを言えるような環境作りに心がけ、支援をする前に意見・希望を聴くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースやその日の状態に合わせて支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望にそった支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを聞いてなるべく希望にそえるようにしている。又、利用者に声かけをし職員と一緒に片付けなどをして頂いている。	ユニット毎に利用者の希望を聞き献立を立てている。旬の食材の買出し(先日はうなぎ)→ランチョンマット準備→下膳→食器拭き等利用者の出来る範囲で職員と一緒にこなしている。食介が多くなったが、職員も同じテーブルで会話を楽しみながら、利用者にも目配りを行っている。母の日や父の日はプレゼントを渡し、お刺身を提供するときもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた分量・形状にて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがい・歯磨き・義歯洗浄などその人に合わせたケアをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の状態に合わせてながら、最終目標を布パンツでトイレにて排泄できるように、自立に向けた支援をしている。	排泄チェック表・パターンを把握し、さりげなく声掛けを行いトイレでの排泄を促し、布パンツ使用を最終目標として、自立に向けた支援に努めている。失禁時は他の利用者に分からないように対応している。飲食物・腹部マッサージ・運動等で便秘予防に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの便秘状態を把握し、飲食物の工夫・医療機関への相談など取り組んでいる。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴状況を見ながら声かけをし、曜日を決めずに希望にそえるよう支援している。	曜日を決めず、利用者の希望に応じた入浴支援に努めている。拒否があった場合は無理強いせず、ケースバイケースで対応している。異性職員拒否の場合は同姓職員で対応。感染予防として入浴順番を考慮したり、足拭きマットの消毒で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい時には休んで頂いています。居室ドアにはプライバシーカーテンがあり、安心して休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録や処方箋にて確認できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の生活習慣や力量に応じ手伝いをお願いしています。又、カラオケやビデオ鑑賞を取り入れています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望にそえるように心がけています。買い物などに行くときは声かけをし希望の方と行っています。又、場所によってはご家族と相談をして協力をして頂いています。	季節の外出イベント以外にも、要望が出たときや毎日の買物、散歩時には声を掛け、季節を感じてもらうよう配慮している。遠出の場合は家族の協力を頂いている。外出の要望が出た場合は、出来るだけ希望にそえるよう支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望のある方についてはご家族と相談の上、所持して頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その人の希望によりご家族と相談の上、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真・植物などを飾り居心地の良い環境作りに心がけています。	玄関先・リビングに季節の草花を飾り。訪問者や利用者を暖かく包んでいる雰囲気であった。場所を知らせる工夫として視線の先に大きな文字標識があった。外出やイベント(今回は七夕・母の日)の写真が飾られ、そこに写る利用者の生き生きとした表情は訪れた家族に喜ばれている。2階から1階の利用者に会いに行ったり、食後はのんびりソファでテレビを見て居る姿があった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファ・中庭にはベンチがあり、思い思いに過ごせる環境になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを置いて頂けるようお話をし居間に置いている。	使い慣れた馴染みの筆筒・椅子・テーブル・テレビ等を安全に配慮し設置している。目覚まし時計・折り紙・家族の写真等を飾り、利用者がゆっくり出来る居室づくりとなっている。2F居室にはトイレが設置されているが、異臭は無かった。掃除は職員が行い清潔保持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアには名前プレートが車イスの方が見やすい高さであり、トイレ・お風呂には見やすい高さでイラストいり大きく表示してある。		

(別紙4(2))

事業所名: ケアプラザうららグループホーム

作成日: 平成27年8月24日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議を今まで以上に、有意義に実のあるものにする為にはどうすれば良いか。	多くの方々に参加頂き、意見交換を交わして、施設のご理解を深めて頂く。	地域の方の参加につながっていない現状を理解し、近隣の方々が気軽に参加頂けるように積極的に声掛けをさせて頂き、民生委員の方などにも声掛けて行きたいと思います。	12ヶ月
2	13	災害時の対策では、現状の職員での対応には限界があり、地域の手助けが必要になる現状である。	地域の方々が気軽に立ち寄って頂けて、お互いに助け合える関係を作る。	こちらから積極的に声掛けをさせて頂き、信頼関係を作り、地域の皆様にご理解頂けるように、働きかけていく。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。